

平成23年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学大学院工学系研究科

評価委員会

平成24年11月

目 次

平成 23 年度教員個人評価について	1
1. 教員個人評価の実施状況	3
1.1. 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など	3
1.2. 教員個人評価の実施概要	3
1.2.1. 評価組織	3
工学系研究科（理工学部）評価委員会ならびに工学系研究科（理工学部）個人評価実施 委員会	3
1.2.2. 実施経緯、内容、方法等	3
1.2.3. 添付資料	5
2. 工学系研究科、理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組 織的に一丸となって行った教育研究活動等	6
3. 評価領域別の集計及び分析	7
3.1. 教育の領域	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項	7
3.1.2. 教育改善に関する事項	10
3.1.3. 教育研修・FD に関する事項	15
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項	17
3.1.5. 学生の受賞等	18
3.2. 研究の領域	20
3.2.1. 著書、論文等の発表実績	20
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績	22
3.2.3. 受賞等の実績	23
3.3. 国際・社会貢献の領域	25
3.3.1. 国際交流実績	25
3.3.2. 社会貢献実績	26
3.4. 組織運営の領域	30
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価	32
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度	32
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム	34
4.3. 評価委員からのコメント	42

平成 24 年度工学系研究科評価委員会委員

平成 23 年度教員個人評価について

大学院工学系研究科における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、大学院工学系研究科評価委員会の下に置かれた大学院工学系研究科個人評価実施委員会において行うこととされ、平成 23 年度分について評価を実施し、その結果を取りまとめたものです。

教員自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、及び組織運営の 4 つの領域ごとの活動状況評価と総合評価を、それぞれ 5 段階の評価点を付与して行います。そして、個人評価実施委員会は、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点からそれら評価点の妥当性を点検しました。

平成 23 年度の工学研究科・理工学部の一取り組みについて、教育、研究、社会貢献の特色を以下に整理します。学生が記録するラーニングポートフォリオに対するチューター教員の指導記録は着実に浸透し、学生の修学状況の把握につとめています。学修目的意識をもつ優秀な学生の会である「STEPs」を設立し、海外研修を通じて「真のリーダーとは」を考える機会をもたせています。また、問題を抱える学生に対しては、佐賀大学保健管理センターのソーシャルワーカーと連携したアウトリーチケアを行っています。また、教員が作成するティーチングポートフォリオについても研修会の開催により、年次計画に従って導入が着実に進行し、教育の質保証に関するベースができつつあります。機能物質化学科では日本技術者教育認定機構（JABEE）継続認定を受けるという大きな成果を得ています。このような教育の質保証に関する取り組みを実践するために教員の教育エフォートが増加の一途を辿っている傾向を見て取ることができます。研究に関しては、教員個人の取り組みを重視し、科学研究費助成事業への応募、採択の向上に努めています。さらに、研究科長経費に基づくグループ研究プロジェクトの推進を図っています。その成果は学術論文などを通じて発表され、教員のみならず、博士前期課程及び博士後期課程学生は数々の賞を受賞するという成果をあげている。社会貢献については、佐賀県工業連合会と連携した「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」を軸とした人材育成活動（インターンシップ、企業見学、大学研究室見学、企業トップ経営者によるキャリア講演会、海外人材育成視察団の派遣など）を行っています。以上に述べました数々の特色ある取組みは、理工学部学士課程教育の質保証、イノベーションをもたらす大学院工学系研究科における研究の実践、地域と共にグローバルに歩む工学系研究科を象徴するものであります。このような活動が行えたのは工学系研究科長のリーダーシップを支える教員と職員、そして学生の皆様が設定される目標とそれに向かって邁進する力の賜物であると確信しております。

本報告書には、上記の教育研究活動等に貢献し、顕著な業績を刻んでいる教員の努力が認め（したた）められていますし、今後も、継続した活動が教員個々に求められています。本書を手にしておられる理工学部後援会、佐賀大学同窓会、佐賀大学校友会、卒業生、修了生を

はじめとした工学系研究科・理工学部のスチークホルダの皆様のご意見等がその原動力になっているもであり、それを基に教員の自己研鑽が不断に図られ工学系研究科・理工学部の発展に資するものと確信しています。皆様のご鞭撻のほど、お願い致します。

工学系研究科長・理工学部長
林 田 行 雄

1. 教員個人評価の実施状況

1.1. 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など

大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）所属の教員（教授、准教授、講師、助教）に対して、別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し、全員から回答を得た（回答率 100%）。（平成 24.3.31 現在）

専攻	対象教員数	実施率(%)
数理学専攻	11	100
物理学専攻	15	100
知能情報システム学専攻	17	100
循環物質化学専攻	21	100
機械システム工学専攻	18	100
電気電子工学専攻	19	100
都市工学専攻	23	100
先端融合工学専攻	21	100
工学系研究科（合計）	145	100

1.2. 教員個人評価の実施概要

1.2.1. 評価組織

工学系研究科（理工学部）評価委員会ならびに工学系研究科（理工学部）個人評価実施委員会

1.2.2. 実施経緯、内容、方法等

- ① 平成 24 年 2 月 20 日
・情報政策委員長から、全教員に対し、評価基礎情報データシステム入力について依頼した。
- ② 平成 24 年 3 月 9 日 工学系研究科評価委員会
・平成 23 年度教員個人評価の様式を決定した。
- ③ 平成 24 年 3 月 12 日
・研究科長は、全教員に対し平成 23 年度活動の自己点検・評価を依頼し、別紙様式 1. 3. 4 を 3 月 15 日から 4 月 13 日までの間に提出を依頼した。
同時に、平成 23 年度の各様式もメールにて送付し、別紙様式 1（平成 23 年度活

動の「個人目標申告書」)の作成・提出も併せて依頼した。

- ④ 平成 24 年 4 月 11 日 評価委員会開催
 - ・平成 23 年度教員個人評価のスケジュールを決定した。
 - ・平成 23 年度教員個人評価集計と分析報告書(様式)について決定した。
 - ・工学系研究科個人評価用集計シート及び理工学部・工学系研究科個人業績集約方法の様式を決定した。
- ⑤ 平成 24 年 4 月 16 日
 - ・「個人評価用集計シート」「個人業績集約の方法」を各専攻長に配布した。
- ⑥ 平成 24 年 5 月 8 日
 - ・「個人評価用集計ツール」を各専攻長に配布した。
- ⑦ 平成 24 年 5 月 8 日
 - ・研究科長は、各教員から提出された平成 23 年度の各様式(1. 3. 4)を各専攻長に送付した。また、同時に「平成 23 年度教員個人評価(専攻)集計と分析報告書」の様式も送付し、同報告書の作成を依頼した。(USB メモリーを手渡した。)
- ⑧ 平成 24 年 5 月中旬から 6 月中旬
 - ・各専攻長は、別紙様式 1、サーバーにアップロードされた評価基礎情報データベース及び別紙様式 3 に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、評価結果を、別紙様式 4 (平成 23 年度の「個人評価結果」)に記載の上、7 月末までに別紙様式 1・3 を含め、研究科長宛に送付することになった。
また、同時に、各専攻長は、平成 23 年度の個人評価結果について、各専攻の集計と分析を行い、その結果を、「平成 23 年度教員個人評価(専攻)集計と分析報告書」に記載し、研究科長へ提出した。(専攻長は、USB メモリーと印刷物(ペーパー)を研究科長へ手渡した。)
- ⑨ 平成 24 年 8 月初旬
 - ・研究科長は、工学系研究科個人評価実施委員会に対し、個人評価結果の審査を付託した。
- ⑩ 平成 24 年 8 月中旬
 - ・同委員会は、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、その結果を研究科長へ報告した。
- ⑪ 平成 24 年 9 月中旬～下旬
 - ・研究科長は、別紙様式 1、サーバーにアップロードされた評価基礎情報データベース及び別紙様式 3「自己点検・評価書」に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、別紙様式 4 (平成 23 年度「個人評価結果」)の評価内容を確認し必要があれば、評価結果の補足等及び研究科長コメントを記載することとなった。
なお、研究科長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、

他の職員から意見を求めることとなった。

また、研究科長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取することになった。

⑫ 平成 24 年 10 月 23 日

・研究科長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した別紙様式 4（平成 23 年度「個人評価結果」）を、当該教員に封書で通知した。その際、専攻毎の平成 23 年度教員個人評価集計と分析報告書を添付した。

⑬ 平成 24 年 10 月 23 日

・各教員は、個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後 2 週間以内（11 月 5 日まで）に異議申立書（様式任意）を研究科長に提出することとなった。
（異議申立書を提出した教員はいなかった。）

⑭ 平成 24 年 11 月中旬

・研究科版の平成 23 年教員個人評価集計・分析報告書（案）を取り纏めた。

⑮ 平成 24 年 12 月上旬

・研究科長は、研究科版の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、工学系研究科評価委員会に対し、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を付託する。

⑯ 平成 24 年 12 月下旬

・評価委員会は、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を研究科長に報告する。

⑰ 平成 25 年 1 月下旬

・研究科長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて工学系研究科教員の個人評価結果を学長に報告する。

1.2.3. 添付資料

佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学大学院工学系研究科における教員の個人評価に関する実施基準

「大学院工学系研究科における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

教員報告書（別紙様式 2）：工学系研究科・理工学部教員活動実績年次報告書（推奨様式）に読み替え

自己点検・評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）

2. 工学系研究科、理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となって行った教育研究活動等

はじめに、工学系研究科教員ならびに職員が組織的に一丸となって行った教育研究活動等を以下に示す。

- 平成 23 年度工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム（平成 16 年度より）：相手国：中国、韓国、ベトナム、インドネシア、タイ
- 数理科学専攻、物理科学専攻、循環物質化学専攻、都市工学専攻、先端融合工学専攻の教員（一部）が参画
- 大学院（工学研究科と農学研究科との連携）国際環境科学特別コース
 - 循環物質化学専攻、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、都市工学専攻、先端融合工学専攻、システム創成科学専攻（後期課程）の教員が参画
- 大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)：
 - 佐賀大学大学院に博士後期課程を有する研究科の教育プログラムである。学術交流協定に基づいて実施されている国際共同研究や国際共同教育を強化し、佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させるために、佐賀大学独自に奨学金制度（佐賀大学奨学金留学制度）を設け、アジア諸国から外国人留学生を博士後期課程に受入れるものである。工学系研究科博士後期課程の教員が参画
- 平成 23 年度佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成 13 年度より）：

2011.10-2012.9	知能情報システム学科	受入教員 1 名	（学生 1 名）
2010.10-2011.9	都市工学科	受入教員 2 名	（学生各 1 名）
- 高等学校ジョイントセミナー、出張講義等
- 環境美化エコ活動
 - 平成 23 年度省エネルギー活動：夏季ピーク電力の抑制策：7 月、8 月期ならびに 12 月、1 月期の空調断続運転
 - 定期的なキャンパス環境美化デーにおける一斉清掃

3. 評価領域別の集計及び分析

3.1. 教育の領域

3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部、修士）、担当コマ数（半期当り換算）、卒業研究指導学生数、修士特別研究指導学生数、博士研究指導学生数（主指導）を表している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当、指導学生数

専攻	職 種	学 部 (教養教育科目を含む)			大 学 院			
		担当 科目 数/ 教員	担当 コマ 数	卒研 学生 指導 数	担当 科目 数/ 教員	担当 コマ 数	修士 学生 指導 数	博士学 生指導 数
数理科学専攻	教 授	4.57	4.29	2.71	2.57	2.50	2.57	0.71
	准教授・ 講師	4.00	4.00	0.75	1.00	1.00	0.75	0.25
物理科学専攻	教 授	6.13	7.56	2.88	2.13	2.75	2.06	0.75
	准教授	5.00	5.83	2.67	3.50	3.72	2.50	0.00
知能情報 システム学専攻	教 授	4.50	5.93	4.17	2.50	2.67	3.67	2.67
	准教授	5.50	4.57	4.67	2.00	2.00	2.83	-
	助 教	1.75	3.08	0.50	-	-	-	-
循環物質化学専攻	教 授	8.33	7.95	4.67	3.89	2.23	4.22	1.72
	准教授	7.17	7.17	4.83	5.00	3.85	3.17	0.00
	助 教	3.80	3.96	1.60	-	-	-	-
機械システム 工学専攻	教 授	4.25	4.78	4.25	2.19	1.74	5.25	1.00
	准教授・ 講師	4.83	5.79	3.50	2.33	1.66	2.33	0.00
	助 教	2.00	3.25	1.75	-	-	-	-
電気電子工学専攻	教 授	2.33	2.51	4.67	2.67	2.38	3.33	0.83
	准教授・ 講師	3.90	5.65	3.20	4.00	3.36	4.10	0.00
	助 教	3.67	6.17	0.67	-	-	-	-
都市工学専攻	教 授	4.5	4.3	4.6	2.1	1.5	2.5	2.6
	准教授・ 講師	4.5	4.9	3.8	2.8	2.6	2.3	0.2
	助 教	3.7	4.7	0.2	-	-	-	-
先端融合工学専攻	教 授	4.3	4.3	4.7	4.5	4.1	4.6	1.8
	准教授・ 講師	5.5	6.0	4.0	4.0	3.3	3.5	0.6
	助 教	2.7	5.0	0.7-	-	-	-	-

受講生数は教務システムに登録された履修者数
授業担当コマ数は、半期当りに換算する。（通年 1 コマの科目は 2 コマとする。） 1 科
目を複数教員で担当する場合は、実働時間とする。

【数理科学専攻】

- 教授、准教授の平均授業担当科目数・コマ数、指導学生数は表 3.1 に示す通りである。
教授・准教授とも同程度の科目を担当している。教授が准教授より多く学生を担当している。博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。

【物理科学専攻】

- 授業負担は、教授が平均で学部 7.6 コマ、修士 2.8 コマになっている。一方、准教授は学部 5.8 コマ、修士 3.7 コマである。どちらかという、准教授が大学院の授業をより多く分担しており、教授は学部対象の科目を多く担当している。教授は准教授より 1 コマ程度授業負担が多くなるように分担することになっているが、ほぼその通りになっている。
- 平均指導学生数は、教授が学部 2.9 名、修士 2.1 名の指導をしているのにたいし、准教授は学部 2.7 名、修士 2.5 名であり、ほぼ同じである。博士後期は 3 名の教授が計 5 名を指導している。卒研究生（＝学部定員数 40 名）と修士（定員 15 名 x 2 学年＝30 名）の指導は、概ね均等に分担している。
- 学部担当コマ数が*.5 コマと小数点以下の数になっているのは、全員「大学入門科目 II」の少人数教育科目を半学期間担当していることによる。
- 物理科学科では、学生が卒業研究に着手できるまで担任制を実施しており、各教員はそれぞれの学年あたり、3～4名の学生を担当として受け持ち、面談による学習・生活指導をおこなっている。

【知能情報システム学専攻】

- 講義を担当している准教授が 1 年間の長期研修に出たため、代わりに講義を担当した教授の講義負担が増えた。
- 一部の科目で担当者が変わった。
- 教授は博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している。この表には現れていないが、准教授には博士学生の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。また、助教の中には卒業研究の学生を実質指導している教員がいる。
- 助教は主に実験指導を担当している。そのため、担当科目数の割には担当コマ数が多い。

【循環物質化学専攻】

- 教授は学士課程（平均：担当科目数 8.33 科目、担当コマ数 7.95 コマ）、大学院博士前期課程（平均：担当科目数 3.89 科目、担当コマ数 2.33 コマ）、卒業研究指導学生数 平均 4.67 名、修士論文研究主旨導学生数 平均 4.22 名、博士論文研究主旨導学生数 平均 1.72 名である。
- 准教授は学士課程（平均：担当科目数 7.17 科目、担当コマ数 7.17 コマ）、大学院

博士前期課程（平均：担当科目数 5.00 科目、担当コマ数 3.85 コマ）、卒業研究指導学生数 平均 4.83 名、修士論文研究主指導学生数 平均 3.1 名、博士論文研究主指導学生数 平均 0.00 名である。

- 助教は主に実験及び演習の指導を担当している。前期後期を通じて 平均 3.80 科目、3.96 コマを担当している。卒業研究指導学生数 平均 1.60 名、さらに、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習や生活相談など）を行っていることが報告されている。
- 教授と准教授は平等に教育を担当するようにカリキュラムが組まれており、卒業研究の学生数も同じである。助教も卒業研究学生を担当し、卒業研究の指導を行っている。H22 年度で退職ならびに転出した教員が 1 名ずつおり、例年よりも担当科目数やコマ数が高かった。また、4 年生進級者も例年より多く、卒研指導学生数も例年より多く、負担増となっている。

【機械システム工学専攻】

- 担当科目数については、教授／准教授ともおおむね同等の科目数を担当しているが、昨年と比較すれば本年度は若干准教授への学部講義負担が多い傾向になっている。
- 助教は機械工学実験Ⅰ，機械工学実験Ⅱ，大学入門科目（創造工学入門）などで実験や演習の指導を担当している。

【電気電子工学専攻】

- 准教授は実験科目を複数の教員で担当しているので、教授よりも科目、コマ数が多い。
- 教授は、准教授よりも卒業研究の指導学生数が多い。また、博士主任指導は教授のみが行っている。
- 准教授が博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている場合がある。
- 准教授の中には定年退職教授の後を引き受けたために修士指導学生が多い教員がいる。
- 助教は複数の教員と一緒に実験指導を担当している。また、卒業研究・修士研究の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。

【都市工学専攻】

- 教授は卒業研究指導（平均 4.6 人）及び大学院博士後期課程の研究指導（平均 2.6 人）において、准教授よりも多くの学生を指導している。
- 准教授は教授よりも大学院において多くの科目（平均 2.8 科目）を担当している。一部の教員が博士後期課程の主指導の有資格者として博士学生を指導している。
- 助教は主に学部の実験指導（平均 4.7 コマ）を担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学部学生の学習に関わる生活相談など）を行っている。

【先端融合工学専攻】

- 教授は学部（平均：担当科目数 4.3 科目）、卒研指導学生数 4.7 名、大学院（平均：担当科目数 4.5 科目）、修士指導学生数 4.6 名、博士指導学生数 1.8 名である。

- 准教授は学部（平均：担当科目数 5.5 科目）、卒研指導学生数 4.0 名、大学院（平均：担当科目数 4.0 科目）、修士指導学生数 3.5 名、博士指導学生数 0.6 名である。
- 助教は主に学部の実験指導を担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習に関わる生活相談など）を行っている。

3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し、工学系研究科各専攻の教員は、次のような取り組み、実践を行っている。

【数理学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 最初はかなり大きめの教室で行っていたが、私語がしばしば聞かれるため受講者数に見合った小さい教室に変更したところ、私語はほとんどなくなった。（准教授）
- 重要な定義をいくつか選び、それを理解するための簡単な穴埋め式小テスト（定義および例題の`証明`中で欠落した部分に適切な語・式を補う）を作成し、実施した。解答時には、あらかじめ板書した問題に一人ずつ順に穴埋めしていく形式で行った。（准教授）
- 2校時に定期試験を行った直後の3校時に、定期試験問題の解答・解説を行った。また翌週、不合格者に対して定期試験問題の類題から成る再試験を実施した。（准教授）
- 前学期 GPA の低かった学生の内、チューターを務めていたことのある一人の学生に「自己点検表」を記入させ、そこに所見併記の上、提出した。（准教授）

【物理学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- パワーポイント教材を改訂し、毎回 PDF ファイルを LiveCampus でダウンロードできるようにして、予習及び復習に便宜を図った。（教授）
- 教材の工夫。（准教授）
- 講義初回に独自アンケートで、学生の知識範囲や本講義に望むこと等を調査し、それらの意見を参考にしながら、既に用意しておいた講義内容の中に盛り込む形で反映させていった。（准教授）
- 担当する複数の科目において LMS を利用し、演習問題の出題だけでなく、毎週の自主学習の指示や、次回の予告などゴーイングシラバスの内容を記載した。（教授）
- LMS において演習問題を出題し、授業時間外の自習を促した。（教授）
- 自作のテキストを充実させることで、学生に自己学習させて発表させ、履修者間での質疑応答の機会を作るなど、対話型の授業ができた。（教授）
- シラバスに自習課題を記載している。（准教授）
- 線形代数、解析と力学の基本的な問題を毎週出題し、授業時間外学習を課した。

(教授)

- シラバスに自習課題を記載している。さらに、原則として毎回演習を行い、答案を回収、採点、返却し、解答例を配布している。(准教授)
- e-Learning の LMS を利用し、毎週演習問題を出題し、回答状況を確認しながら、全員が回答するように指導した。(教授)
- 授業時間外学習ができるよう自作テキストをホームページで公開した。また担当を決めてテキストの内容を発表させた。(教授)
- 演習問題を収録した自作のテキストを公開し、学生が予習・復習をできるようにしている。(教授)
- LMS のサイトに、大学初年次程度の力学や数学の基礎的問題を出題し、自学自習の助けにした。(教授)
- 学習アドバイザー制度を利用するように指導。(教授)

【知能情報システム学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 先年度の授業評価結果に基づいて講義テキストを改訂した。(教授)
- 毎回の授業で、授業計画書を作成し、計画的に授業を進めた。(准教授)
- コミュニケーションカードを活用し、毎回授業の最後に、授業に関するアンケートや簡単な演習を行い、学生の状態の把握に努め、理解の不十分なところや学生の疑問に答えた。(准教授)
- 授業の内容を書き込み式で整理していく授業整理ノートを作成し、授業前に配布した(Web アップロード+紙による配布)。学生からは、「分かりやすい」「復習にも役に立つ」など好意的評価が見られた。(准教授)
- 講義の様子を録画したビデオを公開して学生の復習に役立てた。(教授)
- 学生の疑問などにまめに答えた。(教授)
- 学外講師を招いて先端的な取り組みに関する講演会を 3 回行った。その際には、学生からの質問・コメントを受け付け、講師からの回答を学生にフィードバックした。(准教授)
- Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。(准教授)
- 卒業研究のための Moodle コースを設定し、各種の成果物提出、教育コンテンツの提示、学生の研究ノート管理などに活用した。(准教授)
- Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。(准教授)
- Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。(准教授)
- 毎週、具体的に予習宿題を出し、その内容に関する小テストを行った。(准教授)
- TBL 型の講義にし、グループワーク形式で課題に取り組みせ、学生に発表させた

後に教員が解説することにより、その場で理解が深まるような配慮をした。(准教授)

- 小テスト・確認テストの成績が悪い学生には、宿題を提出させるようにして、直接面談をしてその内容を確認した。(准教授)
- 再試験を実施する前には、自習期間を設けて25コマ分の学習を義務付けた。(准教授)
- 講義はすべて録画して、ストリーミング配信した。また、講義に関する資料や成績情報をホームページ上でユーザ毎に確認できるようにし復習環境を整え、成績不振者に対する面談を行った。(准教授)
- 概論担当教員の交代に伴い、演習内容を見直して改定した。(准教授)
- 担当に伴い、内容を見直すとともに、開講前と閉講後の報告を教室に対して行い、議論を反映した。(准教授)
- 毎週レポート課題を出すことにより、時間外の学習を要求した。(准教授)
- 小テスト、確認テストを通じて復習問題を課すことにより、時間外の学習を要求した。(准教授)
- 毎週、具体的に宿題を出し、その内容に関する小テストを行った。また、小テスト・確認テストの成績が悪い学生には、宿題を提出させるようにして、その内容を確認した。さらに、小テスト・確認テストの詳細な解答と誤答例も公開し、復習しやすい環境を用意した。(准教授)
- 講義をビデオで録画して、Web上で配信した。(教授、准教授)
- ミニットペーパーにより予習および復習の時間を増やした。(教授)
- レポート課題に自力解決型の応用問題を課した。(准教授)
- 毎回の小試験の採点結果で成績を評価している科目で、6回目、10回目の小試験までの採点結果を、成績評価の途中経過として、各受講生にメールで連絡し、学習意欲を促進させた。(教授)
- 学生からの質問内容をQA集の形で公開し、学生全体で共有できるようにした。(准教授)
- 学生からの質問内容を毎回の講義の最初にフィードバックし、学生全体で共有できるようにした。(准教授)
- 確認テストを毎回行い、フォローを入れた。小テストを数回行い、ドロップアウトを防ぐ努力をした。(准教授)
- 当該科目の成績に関する異議申し立てを行った学生へ、調査委員会の調査結果の受け渡しと、その結果の説明を丁寧に行い、さらに学生への学修指導を2時間以上に渡って行った。(教授)

【循環物質化学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 授業評価結果に基づき講義内容を厳選し、高い合格率を達成した。(准教授)

- 重要なところを繰り返し説明したり、丁寧に板書して理解できるようにした。試験前の1コマは、試験準備のための質問時間と重要なところの解説を再度行った。(教授)
- プレゼンテーションにアニメーションを加えて、わかりやすくした。(教授)
- 所属学科では効果的なFDのためにJABEE認定を実現したが、本科目においてもこの基準を満たすように教育内容と方法を継続的に工夫しており、少なからず教育の向上及び改善に結びついていると考えられる。(准教授)
- 授業内容の理解を深めるためにPower Pointによるスライドを用いて図示しながら講義した。(准教授)
- 前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、単にやるべきことを指示するのではなく、受講生が自発的に考え、取り組めるように誘導することを心掛けると共に、これを実践した。(准教授)
- 正規の授業時間を確保すると共に適宜予習や復習のための課題を与えることにより定められた学習保証時間を実現した上で、レポートや試験に基づき厳格に評価した。(准教授)
- 章末問題の課題レポート提出や授業毎の課題レポート提出を義務化した。(准教授)

【機械システム工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 担当科目をJABEEの基準をベースとして授業をすすめ、その結果をFDレポートとしてまとめた。
- シラバスにより授業計画を公開し科目と学習教育目標との対応関係を示した。
- 学生に対し達成度評価をフィードバックすることで、学習意欲の向上に努めた。
- 昨年度の授業評価アンケート等で得られた改善内容を、本年度の講義にフィードバックするよう努めた。
- 学生による成果報告をサポートし、国際会議等での発表を指導した。
- オフィスアワーを設け、学生からの学習・進路等の相談に応じた。
- 卒業研究継続困難な学生の父兄と今後の指導の方法性について相談した。
- 博士後期課程の学生を受け入れ、博士学生定員を充足するように努力した。
- Web上に講義ノート、演習課題の模範解答を公開し、予習復習ができるようにした。
- TAの活用により授業時間中に理解不足の学生に対する個別のフォローに努めている。
- 中間試験を実施し、自主学習を促進させている。
- 演習レポートにできるだけ詳細な添削を実施している。
- 演習レポートを毎回提出させることで、学習の習熟度を上げて行った。
- パワーポイントを効果的に使用するなど、学生の理解を深めるよう講義を工夫した。
- 基礎的学問の内容が、社会(特に工学分野)で実際にどのように役立つかを意識づ

けるよう心掛けた。

- 配属学生を対象に勉強会を開いて専門教育の充実を図った。

【電気電子工学専攻】

教育改善委員会(月1回, 3時間程度), 科目別グループ会議(月1回, 30分程度), カリキュラム検討委員会(月1回, 2時間程度), JABEE委員会(月1回, 1.5時間程度), 学生実験委員会(月1回, 1.5時間程度)にて定期的に教育改善などについて議論した。
(教授, 准教授, 講師, 助教)

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 初年度であった昨年度シラバスの沿った講義を進めることが出来なかったため、本年度は、講義内容の見直しを実施し、ほぼシラバスに沿って進めることができた。
(准教授)
- 毎回宿題を課して理解力、合格率の向上に努めた。(教授)
- 毎回、演習と宿題、それぞれの模範解答の配布などを通して合格率向上に努めた。
(教授)
- 学生相互の議論を行わせ、学習の理解度の向上を行った。(教授)
- 課題を与え、それを自主的に調べて発表させることにより。学習の理解度の向上を行った。(教授)
- 板書とプロジェクタを併用して講義を行うことで理解度の向上に努めた。また使用するスライドは毎回印刷し配布することで自主学習の促進を目指した。その結果、アンケートによる満足度は3.94と高く、また自由記述として「授業良かったと思います」とのコメントを得た。(准教授)
- 電磁気の基礎学力向上と到達レベルの把握に努めた。(教授)
- 電検2種もしくはそれより高いレベルの問題を課して、電磁気の基礎学力向上と到達レベルの把握に努めた。(教授)
- 中間発表会、ミーティングでの発表など、発表機会を設けることにより、卒業研究にとりくむ意識を高め、研究時間を増やした。(教授)
- 授業内容、演習解答などについて、プレゼンの機会を多く与えさせることにより予習を奨励した。(教授)
- 大学院に進学予定の卒研究生2名に電気学会九州支部大会(2件)、応用物理学会全国大会(1件)で発表させた。(准教授)
- 指導している修士学生3名に、電気学会九州支部大会1件、応用物理学会九州支部大会2件、国際会議(PVSEC)1件の発表をさせた。(准教授)
- 電気電子工学修士実験で実施した「半導体プロセス実験」において、実験テキストを作成、配布することで、安全かつ着実に理解しながら実験を遂行できるようにした。(准教授)
- TAを配置して演習をするだけにとどまらず、授業及び演習後毎回宿題を課すと共に解答例を開示した。(教授)

- 毎回宿題を課すと共に解答を開示した。（教授）

【都市工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 授業評価アンケートの結果をもとに次年度に向けた改善（予習、シラバス、小テスト）（教授）
- 少人数に分け、技術職員や TA などのサポートによるきめ細かい指導（教授）
- 「文章表現と文書作成」の指導（准教授）
- 中学英語文法の復習の導入とビジネス語彙の把握（教授）
- 構造力学学習支援プログラムの改善（准教授）
- 平易な表現を用いたテキストの大幅な書き直しによる理解の促進（准教授）
- 事前自習の要求（教授）
- 新規テキストの作成（准教授）
- 講義ごとの質問票やミニテストの配布とチェック（教授、准教授）

【先端融合工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 福島の事故に関するホットな情報を取り入れた講義を行うとともに、現実におこっているケースを例に試験問題を作成した。（教授）
- LMS (Learning Management System)を利用した演習を実施した。（教授）
- 講義に利用するパワーポイントファイルの内容を改良した。（教授、准教授）
- 演習の解答例を作成し、配布するようにした。（教授）
- 研究室のゼミの記録を Wiki ベースに変更し、学生がいつでもどこでも実験結果や論文をアップロードできるようにした（教授）。
- 研究室のゼミを英語で行った。（教授）
- ”わかりやすい授業”を目指して、授業の進行スピードを落とすとともに、同じ内容を複数回にわたって講義するようにした。（教授）
- eラーニングシステムを利用し、自己学習を義務づけた。（教授）
- 担当科目について各回授業後学生による授業評価を実施し、授業改善に取り組んだ（准教授）
- 毎回の講義の手書き版書を学生個々のメールアドレスに配布した。（准教授）
- 試験を4回に分けて行い、合格率、学生の満足度ともに向上した。（准教授）

3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FDについて、工学系研究科各専攻の教員は次の活動を行っている。

【数理学専攻】

専攻・学科内でのFD活動の他、

- 保健管理センターの佐藤先生による講演「ハラスメント～思いやりのない行動」を拝

聴した。(准教授)

- 佐賀県高等学校数学教員との交流会に参加した。(教授・准教授)
- 教職実践演習における「教職カルテ」の説明を受けた。(准教授)

【物理科学専攻】

専攻内での個々人の FD 活動以外に、下記の活動がある。

- 多種、多様な FD 関連講演会やシンポジウムへの参加が見られる。
- 一部の教員は、企画、主催に関わっている。
- 一部の教員は、パネラーや、座長、進行を行っている。

【知能情報システム学専攻】

- 本専攻の教授、准教授、講師は、全員毎年何らかの FD 活動を行い、それを専攻内会議において報告し、専攻全体で知見を共有している。
- ティーチングポートフォリオに関してワークショップや研修を主催したり、他大学で開催された同様のワークショップや研修で講師を務めた。(准教授)

【循環物質化学専攻】

- 学科に教育プログラム委員会及び教育FD委員会を設置し、授業改善について議論した。(教授、准教授、助教)
- JABEE ワーキンググループ (教授、准教授、助教)
- 基礎科目の補習ができるように演習問題とヒント、解答を載せた e-Learning システムを構築した。(教授、准教授)
- 佐賀大学 FD・SD フォーラム、理工学部・工学系研究科 FD 講演会参加 (教授、准教授、助教)

【機械システム工学専攻】

専攻・学科内での FD 活動の他、

- 専攻・学科内に設置した教務グループによる JABEE 推進対応、学部および大学院の教務関連事項の検討
- 学部 FD 講演会への参加

などが報告された。

【電気電子工学専攻】

専攻内での FD 活動

- チューター制により年2回(毎学期はじめ)の個人面談にて履修と単位取得状況のチェックや修学上の相談を行っている。(全教員)

専攻内での FD 活動の他に、以下を実施した。

- 工学系研究科・理工学部 FD 講演会 (教授、准教授)
- 佐賀大学 FD・SD フォーラム (教授、准教授)
- 佐賀大学教養教育運営機構 FD・SD 講演会 (教授、准教授)
- 佐賀大学教養教育運営機構 FD 講演会・勉強会 (教授、准教授)
- ティーチングポートフォリオの導入・活用シンポジウム 2011 in 佐賀大学 (教授、准

教授)

- スキルアップセミナー (教授, 准教授)
 - JABEE 認定の審査報告会 (准教授)
 - ハラスメント講演会 (教授, 准教授)
- への参加が報告されていた。

【都市工学専攻】

専攻内での FD 活動の他、

- 工学系研究科 FD 報告会 (教授, 准教授)
- JABEE 報告会 (准教授)
- ハラスメント講演会 (准教授)

への参加が報告されていた。

【先端融合工学専攻】

専攻・学科内での FD 活動の他

- 学部・研究科, 教養教育運営機構での FD 講演会への参加 (教授, 准教授)
- 日本技術者教育認定制度(JABEE)審査講習会・受審校向け講習会への参加 (教授)
- 学部平成 23 年度 JABEE 認定の審査報告会への参加 (教授)
- 文科省ティーチング・ポートフォリオの導入・活用シンポジウムへの参加 (教授)
- 教育職員免許取得についての研修会への参加 (教授)
- 学部ティーチング・ポートフォリオ・ミニワークショップへの参加 (教授)
- 「JABEE 認定制度と 2012 年度基準改定」講演会への参加 (准教授)

が報告されていた。

3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置状況と学生相談の内容について、工学系研究科各専攻の教員は次の活動を行っている。

【数理科学専攻】

- 相談内容は学業や就職に関するものが多い。(教授, 准教授)

【物理科学専攻】

- 報告をされている相談件数の総数は 131 件、うち学修相談が大部分を占め、進路相談は 13%程度、生活相談が 5%を占める。
- 学生の訪問のうち、オフィスアワーを利用しているのは 10%程度であり、あまり活用されていない現状がある。
- 特に修学上の遅れがみえる学生については教室会議で取り上げ、情報交換をすることによって可能な限りの対策を行っている。
- 大学院生については、指導教員が担任の役割を果たしている。

【知能情報システム学専攻】

- 相談内容は学修に関するものが多い(教授, 准教授, 助教)

- ノート PC の購入に関する相談がある（教授）
- 面談での相談に加え、電子メールでの相談も多い（教授、准教授、助教）
- 進路に関する相談は、就職担当教員が一括して担当している（教授）

【循環物質化学専攻】

- オフィスアワーの設置と学生の訪問については、全教員が行っている。オフィスアワーの設置と学生の訪問については、全教員が行っている。毎学期毎に全学生に対し、チューター面談を実施している。

【機械システム工学専攻】

- 相談内容は学修相談と就職・進路相談が各々全体の半数ずつで、それ以外には生活相談を実施している。

【電気電子工学専攻】

- 延べ回数は一般学生に対してが約 600 回、留学生、社会人がそれぞれ 18 回程度であった。（全教員）
- 相談内容は学修相談が最も多く、進路相談、生活相談と続く。（全教員）
- 卒論生、大学院生については、指導教員が相談担任の役割を果たしている。
- 後援会後に主として学年担当と保護者を交えて面談を行い、学修指導を実施している。（教授、准教授、講師、助教）
- チュータ制により少人数対応の指導を行っている。（全教員）
- 就職指導に関しては就職担当教授も行っている。（教授）

【都市工学専攻】

- 相談内容は講義内容に関する質問、最終試験の範囲などに関するものが多い。
- 各学年を教員全員で分担し前期と後期の始めにそれぞれ個人面談を行っている。
- また修学上あるいは生活上の特に問題のある内容については、教務委員あるいは学生委員を中心に定期的な相談システムで対応している。

【先端融合工学専攻】

オフィスアワーの設置と学生の訪問については、全教員が行っている。また、全教員が電子メールでの対応も含め、オフィスアワー時間以外にも対応している。内容は教務事項が多い。

3.1.5. 学生の受賞等

【知能情報システム学専攻】

- 教育システム情報学会学生研究発表会優秀賞（指導教員：准教授）
- Best WIPP(Work-In-Progress-Poster) Award of The 19th International Conference on Computers in Education（指導教員：准教授）

【循環物質化学専攻】

- 第 29 回九州分析化学若手の会夏季セミナー ポスター賞（指導教員：教授）
- Seminar on Globalization Program of Graduate School of Science and

Engineering (GSSE), Saga University, - Invitation Program for Foreign Excellent Researchers -ポスター賞 (指導教員：教授、准教授)

- 2011年 日本イオン交換学会・日本溶媒抽出学会連合年会(第30回溶媒抽出討論会)ポスター賞 (指導教員：教授)

【機械システム工学専攻】

- 日本機械学会 畠山賞
- 日本機械学会 三浦賞
- 日本設計工学会 武藤栄次賞

【電気電子工学専攻】

- MWE2011 マイクロ波回路設計学生コンテスト 最優秀賞2件, 優秀賞2件 (指導教員：教授, 講師, 助教)
- 電子情報通信学会九州支部学生講演会奨励賞 3件 (指導教員：教授, 准教授)
- 電気関係学会九州支部連合大会講演奨励賞 (指導教員：准教授)
- 第3回ユニーク・自作チップコンテスト in ひびきの 本選進出認定証 (指導教員：准教授)
- 電気関係学会九州支部連合大会発表賞 B賞 (指導教員：准教授)
- 2011 Takashi Ohira Prize (指導教員：教授, 講師)
- 2011 Excellent Presentation Award of the IEEE Fukuoka Section 3件 (指導教員：教授, 講師, 助教)

【都市工学専攻】

- 2011 International Association of Lowland Technology ベスト論文賞 2名 (指導教員：教授、教授)
- 2011年度日本コンクリート工学協会九州支部長賞 1名 (指導教員：准教授)
- 2011年度日本建築学会九州支部支部長賞 1名 (指導教員：教授)
- 2011年度都市住宅学会九州支部優秀学生賞 1名 (指導教員：講師)
- 2011年度日本都市計画学会九州支部支部長賞 1名 (指導教員：教授)
- 2011年度地盤工学会九州支部優良学生賞 1名 (指導教員：教授)
- 2011年度支部共通事業日本建築学会設計競技 九州支部入選 (指導教員：講師)

3.2. 研究の領域

3.2.1. 著書、論文等の発表実績

過去5年間（H19.4.1～H24.3.31）の発著書、論文等の発表実績を表 3.2 に示す。

表 3.2 過去5年間（H19.4.1～H24.3.31）の発著書、論文等の発表実績の平均値

専攻	職種	著書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理科学専攻	教授	0.29	4.57	4.43	0.00	0.00	4.57	4.43
	准教授	0.00	3.75	3.25	0.25	0.00	3.50	3.25
物理科学専攻	教授	0.25	15.88	13.25	1.75	0.13	13.88	13.13
	准教授	0.17	10.83	14.17	0.00	0.00	8.83	12.67
知能情報システム学専攻	教授	1.33	27.67	26.83	10.50	9.67	17.17	17.17
	准教授(講師含)	0.83	24.67	13.00	13.00	2.50	8.00	8.00
	助教	0.00	0.50	1.25	0.25	0.50	0.25	0.75
循環物質化学専攻	教授	0.44	14.44	13.56	1.11	0.22	13.33	13.33
	准教授	0.17	15.50	12.00	0.83	0.00	14.67	12.00
	助教	0.20	7.20	7.00	0.20	0.00	7.40	7.40
機械システム工学専攻	教授	0.75	19.50	17.38	5.38	3.50	14.13	13.88
	准教授(講師含)	0.50	17.33	15.00	3.17	3.17	14.17	11.83
	助教	0.00	16.50	8.25	11.00	4.50	5.50	3.75
電気電子工学専攻	教授	2.00	31.50	30.33	13.83	4.17	19.83	19.50
	准教授(講師含)	1.10	23.90	14.80	11.40	2.30	12.50	12.50
	助教	0.33	11.00	11.00	2.00	2.00	8.67	8.67
都市工学専攻	教授	1.1	24	16.3	9.2	4.2	14.8	11.8
	准教授(講師含)	0.7	20.3	8.4	14.3	4.0	6	4.3
	助教	0.2	14.5	10	8	6	4	4
先端融合工学専攻	教授	1.1	39.4	35.9	5.5	2.2	33.6	33.5
	准教授(講師含)	1.6	27.4	24.4	3.6	2.5	23.0	22.3
	助教	0.0	8.7	8.0	3.3	3.3	5.3	4.7

【数理科学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- ・ 教授の研究活動は非常に活発である。全員が国内外の一流雑誌に掲載している。
- ・ 准教授の研究活動は活発である。教授と遜色なく研究を行っている。

【物理科学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

分野間や研究形態の違いにより、発表論文数にはばらつきがあるが、いずれの場合も

- 教授の研究活動は概ね良好におこなわれている。
- 准教授の研究活動は概ね良好におこなわれている。

【知能情報システム学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授、准教授の研究活動は順調であり、成果を上げている。
- 全体的に前年度より数値が向上している。
- 助教の研究活動は停滞していると言わざるを得ない。研究活動を論文の数だけで短絡的に結論づけることはできない。しかし、表の数値が 5 年間の総数であることを考えると、助教の研究活動に問題が無いとは言えない。

【循環物質化学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は非常に良好であり、5 年間に一人平均 13.56 編の査読付き論文を報告している。
- 准教授の研究活動は非常に良好であり、5 年間に一人平均 12.00 編の査読付き論文を報告している。
- 助教の研究活動は良好であり、5 年間に一人平均 7.00 編の査読付き論文を報告している。

いずれの教員とも、主として査読付き英文論文を報告しており、国際的水準にある研究活動を行っていると思われる。

【機械システム工学専攻】本表より、教授、准教授・講師、助教ともに概ね良好な研究活動が行われていると評価できる。

【電気電子工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、論文総数が年平均 6 編以上であり、大半が査読付きであり英語原著論文が多いことから窺い知れるように優れている。
- 准教授の研究活動は、論文総数の年平均が 4.78 編であり、半数以上が査読付きであり、約半分が英文原著論文であることから窺い知れるように優れている。
- 助教の研究活動は、論文総数の年平均が 2 編であり、すべてが審査付であり、大半が英語原著論文であることから窺い知れるように優れている。

【都市工学専攻】

- 研究の業績は論文数のみでは測れないが、査読付き論文は業績の質を知る上で有効である。学科全体としては、更なる研究活動が望まれるが、特に査読付き原著論文について、より一層の研究活動が望まれる。
- 教授の研究活動は、著書、論文総数（平均 24 編）、査読付き論文（平均 16 編）、英文原著（平均 15 編）において准教授及び助教よりも多く、教授として堅実な研究活動の業績が示されている。次に、准教授の研究活動は和文原著（平均 14 編）において教授を上回るが、査読付論文が助教より少なく研究の質的な向上が課題である。最後に助教の研究活動は総数において教授及び准教授よりも少ないが、論文総数と和文原著の査読付論文数（平均 6 編）が准教授を上回り、研究の質の面で業績が上

がっていると見られる。

- 以上は平均値による把握であるが、個人間の論文数のばらつきが非常に大きくなっているところに別の課題がある。論文総数を例に見ると、最多は 67 編、最少は 1 編と大幅な開きがあり、一部の教員において研究業績が上がっていないという実態がある。今後研究者としての一層の自覚と研究活動の取り組みの強化が望まれる。

【先端融合工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授は5年間で平均 35.9 件の査読付き論文を発表している。
- 准教授は5年間で平均 24.4 件の査読付き論文を発表している。
- 助教は5年間で平均 8.0 件の査読付き論文を発表している。

3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【物理科学専攻】

データに該当するデータが存在しないが、S2 のデータより 2 件の共同研究があることがわかる。

【知能情報システム学専攻】

- 民間企業との「ホワイトスペース(エリアワンセグ放送)の利活用に関する研究と実証」に関する共同研究 (教授)

【循環物質化学専攻】

- 平成 23 年度工学系研究科長経費 研究活性化事業「中期計画推進経費」に専攻より 2 件採択継続 (教授、准教授、助教)
- 平成 23 年度学長経費「研究プロジェクト」に専攻より 1 件継続採択 (教授)
- 平成 23 年度学長経費「大学改革推進経費」に専攻より 3 件新規採択 (教授、准教授)
- 平成 23 年度工学系研究科長経費研究活性化事業「若手研究者支援経費」に専攻より 4 件新規採択 (准教授、助教)
- 市・県、財団法人、民間企業、大学との共同研究を 21 件受け入れた (教授、准教授)
- 市・県、財団法人、民間企業からの受託研究を 17 件受け入れた (教授、准教授、助教)
- 環境省と文部科学省の外部資金を獲得 (教授、准教授)
- 科学研究費補助金に 8 件採択 (教授、准教授)

その他、委任経理金受入に関する報告が多数ある。

【機械システム工学専攻】

- 1234ze 系混合冷媒を用いた伝熱管の性能評価
- 自動車関連産業参入のための Mg 合金の力学データベースの先駆的整備研究
- 乱れ促進体を用いたプレート式熱交換器の相変化を伴う伝熱促進と圧力損失低減
- 極少量の水を含むアンモニアの気液平衡特性と溝付管内蒸発熱伝達の実験

- 海洋深層水吐出口流の海洋表層への影響に関する基礎研究
- 増圧操作とくぼみ付き流路幾何パラメータの関係についての研究
- 螺旋板型アンモニア蒸発器に関する研究
- 水素吸蔵合金容器における伝熱および水素吸蔵特性の解析
- 高効率ノンフロン型空調機器技術の開発 など

【電気電子工学専攻】

- 外部磁石支援型マグネトロンスパッタリングによる窒化アルミニウム薄膜高速合成に関する研究（准教授）

【都市工学専攻】

- 海外の大学との共同研究（タイ・カセサト大学）（教授）
- 海外の大学との共同研究（タイ・タマサト大学）（教授）
- 文化教育学部、医学部教員との異分野融合共同研究（JSPS）（教授、准教授）
- 委託研究プロジェクト（教授）（外部資金 9,586 千円）（教授）

【先端融合工学専攻】

- 生体ハイブリッド信号に基づく動作補助ロボットの研究(教授，代表，基盤(C)，2,080 千円)
- 量子ドットによる細胞酸素イメージング：腫瘍内低酸素のリアルタイムモニタを目標して（教授，基盤(C)）
- 動的せん断ひずみの時空間解析によるエバネッセント場の検出と 微小亀裂の撮像に関する研究（教授，代表，基盤(C)，800）
- 振動・音場併用解析を用いたインバータ用リアクトルの低騒音化に関する研究（教授，代表，基盤(C)，1,300 千円），教授
- 計算解剖モデルの診断・治療の融合的支援応用（教授，分担，新学術領域研究，1,105 千円），教授
- 低侵襲的治療法を目指した流体力学的アプローチ（講師，財団研究助成）
- 日常生活動作に基づく人工関節運動シミュレータの開発(教授，代表，共同研究，2,105 千円)

3.2.3. 受賞等の実績

【知能情報システム学専攻】

- BEST MULTI-DISCIPLINARY PAPER AWARD（准教授）

【循環物質化学専攻】

- ヨウ素学会よりヨウ素学会賞（教授）

【機械システム工学専攻】

- Best Presentation Paper Award
- JACM Fellows Award
- 日本材料学会優秀講演発表賞

- 第 28 回軽金属奨励賞 軽金属学会

【電気電子工学専攻】

- 第 3 回ユニーク・自作チップコンテスト in ひびきの 本選進出認定証 (准教授)
- 電子情報通信学会 論文賞 (教授)

【都市工学専攻】

- 佐賀県、「つくっとサガアワード 2011」で受賞、准教授、講師
- 佐賀県、「第 3 回「佐賀の木・家・まちづくり賞」」で知事賞受賞、准教授、講師
- 佐賀県、「第 3 回「佐賀の木・家・まちづくり賞」」佐賀の家賞受賞、准教授、講師
- International Association of Lowland Technology、ベスト論文賞受賞、教授.
- International Association of Lowland Technology、ベスト論文賞受賞、教授.
- 日本観光研究学会、「第 4 回学会賞観光著作賞」受賞、准教授

3.3. 国際・社会貢献の領域

3.3.1. 国際交流実績

【数理学専攻】

- 英語による研究業績アーカイブ（准教授）

【物理学専攻】

- 国際パートナーシッププログラムによる韓国延世大学とのジョイントセミナー（第8回目：於 延世大学）を企画・運営した。（教授）
- 国際パートナーシッププログラムによる韓国延世大学とのジョイントセミナー（第8回目：於 延世大学）を企画・運営した。（教授）
- 外国語によるホームページの開設について研究業績の紹介等を行った。（教授）

【知能情報システム学専攻】

- 英語によるホームページを開設している（教授1名、准教授1名）。
- 各種国際会議プログラム委員、査読委員（教授1名、准教授2名）。

【循環物質化学専攻】

- 工学系研究科国際パートナーシップ講師（教授）
- 工学系研究科における国際化推進事業（外国人研究者招へい事業）主催ならびに講師（教授、准教授）
- European Molecular Liquids Group-Japanese Molecular Liquids Group 2011 Annual Meeting in Warsaw の実行委員として、国際会議の実施に携わった。（准教授）
- 海外研究者の受け入れ（教授、准教授）

【機械システム工学専攻】

- 国際パートナーシップ講師
- 国際学会の Committee
- 国際会議開会の運営委員，実行委員など
- 海外からの研究者の受け入れ
- 留学生の受け入れ
- 国際会議における発表等
- 外国語によるHPの開設

【電気電子工学専攻】

- 国際会議などへの参加・講演（教授，准教授，講師，助教）

【都市工学専攻】

- 工学系研究科国際パートナーシップ講師（教授）
- 環黄海教育プログラム実施（教授、准教授）

【先端融合工学専攻】

- 英語によるホームページ開設（教授、複数）

3.3.2. 社会貢献実績

【数理学専攻】

- 学会論文査読委員（教授、准教授）
- ジョイントセミナー（教授、准教授）
- スーパーサイエンスハイスクール講師（准教授）
- 生命保険数理講座公開（准教授）
- 微分積分特訓講座（教授、准教授）

【物理学専攻】

- 学会論文査読委員（教授、准教授）
- ジョイントセミナー（教授、准教授）
- 佐賀県高等学校校長連絡会での講演（教授）
- 「佐賀大学の授業を受けてみよう」（教授）
- 佐賀県高等学校理科教育研究大会（准教授）
- 物理学教員による連絡会（准教授）
- 佐賀県教員による高大接続に関する研修会（教授）
- 九州高等学校生徒理科研究発表大会審査員（教授）
- 佐賀県スーパーサイエンスハイスクール運営指導運営委員会（教授）
- 九州大学大学院アドバイザリーコミッティー委員（准教授）
- 文部科学省新学術領域研究専門委員会（教授）

【知能情報システム学専攻】

- 情報処理学会九州支部評議員（准教授）
- 電子情報通信学会英文論文誌編集委員（准教授）
- 日本リモートセンシング学会査読委員（教授）
- 画像電子学会誌査読委員（教授）
- 情報処理学会論文誌査読委員（教授、准教授）
- 日本教育工学会論文誌査読委員（教授、准教授）
- 日本教育工学会論文誌編集委員会委員（教授）
- Journal of Computational Science on Scientific Computation Methods & Applications 査読委員（准教授）
- 電子情報通信学会英文論文誌査読委員（准教授）
- 高校生向けジョイントセミナー（教授、准教授）
- 九州テレコム振興センター委託事業のコーディネータ（教授）
- 総務省フューチャースクール事業協議会委員（教授）
- 佐賀県教育委員会先進的 ICT 利活用教育推進事業委員（教授）

【循環物質化学専攻】

- 学会評議員（教授）
- 学会代議員（教授）

- 学会論文査読委員（教授、准教授）
- 学会論文誌編集委員（教授、准教授）
- 学会支部幹事（教授）
- 佐賀県理科・化学教育研究発表会実行委員・講師（教授、准教授）
- 九州地区高等学校化学クラブ研究発表会 佐賀大会主催（教授）
- ジョイントセミナー講師（教授、准教授）
- 学会開催の実行委員、運営委員など（准教授）
- 学会分科会合同講演会および見学会実行委員（教授）
- 学会懇話会講演会実行委員（教授）
- 研究会講演講師（准教授）

【機械システム工学専攻】

- 学会理事
- 学会常務理事
- 学会評議員
- 学会校閲委員，編集委員，運営委員
- 学会九州支部理事，評議員，商議員，常議員など
- 研究会会長，幹事など
- 学会開催の実行委員，運営委員など
- ジョイントセミナー
- スーパーサイエンスハイスクールの講師
- 佐賀大学ものづくり技術者講座育成講座
- オープンラボ

【電気電子工学専攻】

- 学電気学会 電子デバイス技術委員会 幹事（教授）
- 電気学会 パルスパワーおよび放電の農水系利用 調査専門委員会 委員（准教授）
- 電子情報通信学会 電磁環境工学研究専門委員会 委員（准教授）
- 電子情報通信学会 論文査読委員（講師）
- 電子情報通信学会 マイクロ波研究会専門委員（講師）
- 2011 年度電子情報通信学会九州支部学生会講演大会 講演大会開催地運営担当顧問（准教授）
- 映像情報メディア学会 放送技術研究会専門委員（講師）
- 電気関係学会九州支部連合大会委員会 電気関係学会九州支部第 64 回連合大会開催地実行委員会 副委員長（開催責任者）（准教授）
- 電気関係学会九州支部連合大会委員会 電気関係学会九州支部第 64 回連合大会委員会 委員（准教授）
- アメリカ電気電子学会 IEEE Microwave and Wireless Components Letters 論文査読委員（講師）

- アメリカ電気電子学会 IEEE Transactions on Microwave Theory and Techniques
論文査読委員（講師）
- 日本知能情報ファジイ学会 九州支部会計幹事（講師）
- MWE2011 実行委員会 プログラム委員会委員（教授）
- MWE2011 実行委員会 総務委員会副委員長（教授）
- スプリング8 課題審査委員（教授）
- 科研費審査委員（教授）
- 佐賀県立佐賀工業高等学校評議員（教授）
- 佐賀県立佐賀工業高等学校ハイスクールプランニングの統括（教授）
- ジョイントセミナー講師（教授、准教授、講師、助教）
- ロボット・エレクトロニクスものづくり体験教室（准教授）
- 六角小学校による見学会（助教，准教授）

【都市工学専攻】

- 学会論文査読委員（教授、准教授）
- 学会論文集編集委員（教授、准教授）
- 学会受賞者選考委員（教授）
- 佐賀県主催協議会等の運営委員（教授、准教授）
- 佐賀県主催の技術セミナーの講師（教授）
- 学会主催講演会の講師（教授）
- 佐賀県主催講演会の講師（教授）
- 研究プロジェクトのポスタセッション発表（教授）
- 佐賀県からの受託研究
- 自治体からの受託研究
- 民間からの受託研究
- 自治体職員に対する技術指導

【先端融合工学専攻】

- 学会の役員，運営委員，幹事，委員など（教授，准教授）
- 学会論文査読委員（教授）
- ものづくり講座講師（准教授）
- 国際学会座長（准教授）
- 佐賀県高等学校教育研究会講師（教授）
- ジョイントセミナー講師（准教授）
- スーパーサイエンスハイスクール事業講師（教授，准教授）
- 佐賀県の審議会の審議員（教授，准教授）
- 佐賀県主催の協議会等の幹事，運営委員など（教授）
- 共同研究・受託研究（教授，講師）
- 技術指導（准教授）

- 教員免許状講習会（准教授）
- 科目等履修生への講義（准教授）

3.4. 組織運営の領域

【数理学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）

【物理学専攻】

- 理工学部・工学系研究科各種委員の担当（教授、准教授）
- 一部の教員が役職を担っている。（教授）
- 一部の教員が全学委員会委員を担っている。（教授）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授、准教授）

【知能情報システム学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授、准教授、助教）

【循環物質化学専攻】

- 高等教育開発センターセンター長（教授）
- 総合分析実験センターセンター長（教授）
- 大学教育委員会副委員長（教授）
- 大学教育委員会 FD 専門委員会委員長（教授）
- 大学教育委員会ポートフォリオ専門委員会委員長（教授）
- 工学系研究科副研究科長（教授）
- 工学系研究科連携大学院運営委員会委員長（教授）
- 工学系研究科評議委員（教授）
- 工学系研究科安全委員会委員長（教授）
- 教養教育運営機構副機構長（教授）
- 知的財産部門長（教授）

【機械システム工学専攻】

- 工学系研究科・理工学部各種委員の担当（全教員）
- 各種全学委員会委員
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 美化デーなどの活動に積極的に参加（全教員）
- 後援会協賛のOB懇談会開催

【電気電子工学専攻】

- 各種全学委員の担当（教授、准教授）
- 工学系研究科各種委員の担当（教授、准教授、講師）
- 学科・専攻関連各種委員の担当（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- キャンパスクリーンデーなどの活動に積極的に参加（全教員）
- シンクロトン光応用研究センター長（教授）

【都市工学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 全学委員の担当（教授）
- 大学法人の補佐業務（教授）
- 大学研究組織の組織運営（教授）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（准教授、助教）
- 高大連携ジョイントセミナー講師（教授、准教授）

【先端融合工学専攻】

- 全学・工学系研究科などの各種委員の担当（全教員）

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの専攻の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

専攻	職種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会貢献の領域		組織運営の領域		総合評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理科学専攻	教授	3-5	70-95	3-5	70-100	3-5	60-100	3-5	70-95	3-4
	准教授	3-5	80-90	2-4	20-100	1-4	0-80	3-5	70-100	1-4
物理科学専攻	教授	3-4	60-100	2-4	40-100	3-5	70-100	3-4	50-100	2-4
	准教授	1-4	0-90	1-4	0-80	1-4	0-85	1-4	0-90	1-4
知能情報システム学専攻	教授	4-5	72-100	3-5	75-100	4-5	70-100	4-5	95-100	3-5
	准教授 講師含	4-5	90-100	3-5	60-100	3-5	60-100	3-5	70-100	3-5
	助教	3-4	80-90	3-5	50-100	3-4	10-80	3-5	80-100	3-4
循環物質化学専攻	教授	2-5	50-100	2-5	60-100	3-5	60-100	3-5	60-100	3-4
	准教授	4-4	80-90	4-5	80-100	3-5	70-95	4-5	80-95	4-5
	助教	2-5	40-100	2-5	40-100	2-5	40-100	2-5	40-100	2-4
機械システム工学専攻	教授	3-5	70-100	3-5	65-100	4-5	70-100	3-4	60-100	3-4
	准教授 講師含	4-4	80-90	3-5	70-95	3-4	60-85	3-5	80-100	3-4
	助教	3-5	70-90	3-5	70-100	3-4	70-100	3-4	70-100	3-4
電気電子工学専攻	教授	3-5	75-100	4-5	80-100	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5
	准教授 講師含	3-5	60-100	2-5	40-100	3-5	40-95	2-5	40-100	2-5
	助教	3-4	60-85	3-5	70-100	3-4	60-90	3-4	50-80	2-4
都市工学専攻	教授	2-4	50-85	2-5	60-100	2-5	40-95	3-5	65-95	3-5
	准教授 講師含	3-5	65-95	2-5	30-100	3-5	50-95	3-5	70-100	2-5
	助教	3-5	75-100	3-5	70-95	4-5	75-100	3-4	70-90	3-5
先端融合工学専攻	教授	3-5	50-100	2-5	50-100	3-5	50-100	3-5	50-95	3-5
	准教授 講師含	3-5	70-100	2-4	50-90	3-4	60-80	3-5	70-100	3-4
	助教	3-5	70-100	3-4	60-80	2-4	30-80	3-5	80-100	3-4

表中、例えば、(3-4)は評価点、達成率の（最小数3—最大数4）を表す。

一部の専攻において助教の人数が少ないため、助教のデータは割愛した。

【数理科学専攻】

この表から、各教員は適切な自己評価を行っていると思われる。

【物理科学専攻】

この表から、各教員は的確な自己評価を行っていると思われる。

【知能情報システム学専攻】

この表から、各教員は適切な自己評価を行っていると思われる。

【循環物質化学専攻】

この表から、各教員は積極的な自己評価を行っていると思われる。

【機械システム工学専攻】

この表から、ほとんどの教員においてはそれぞれの職分を考慮した適確な自己評価を行っていると思われるが、一部の教員については本学および本学部の目標達成に向けた活動という観点から判断して自己総合評価が若干低いように思われる。

【電気電子工学専攻】

この表から、各教員は概ね妥当な自己評価を行っていると思われる。

【都市工学専攻】

助教の個人評価は比較的類似しているが、教授と准教授ではそれぞれ個人差の開きが大きという特徴が見られる。一部やや厳しい教員の自己評価が見られるが、全体的には各教員は概ね妥当な自己評価を行っていると思われる。

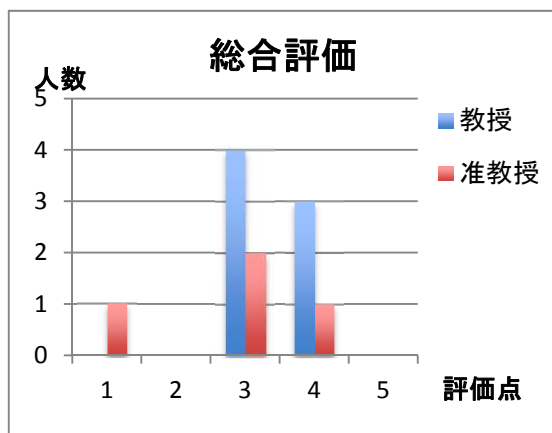
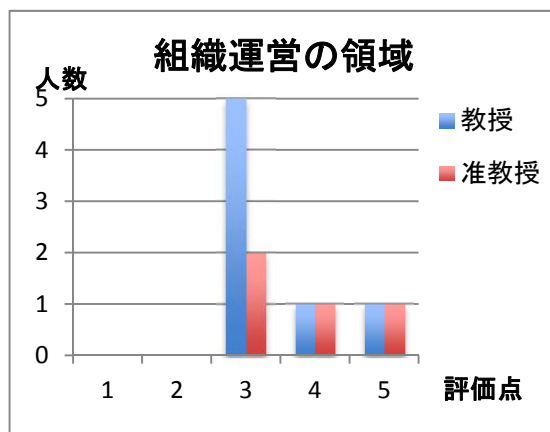
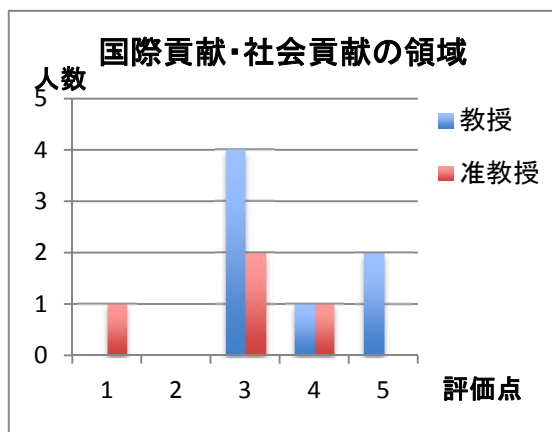
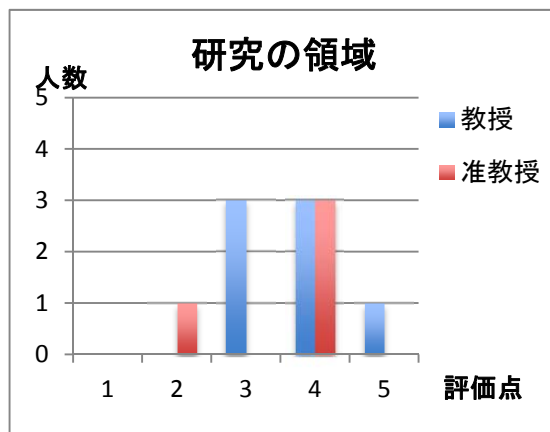
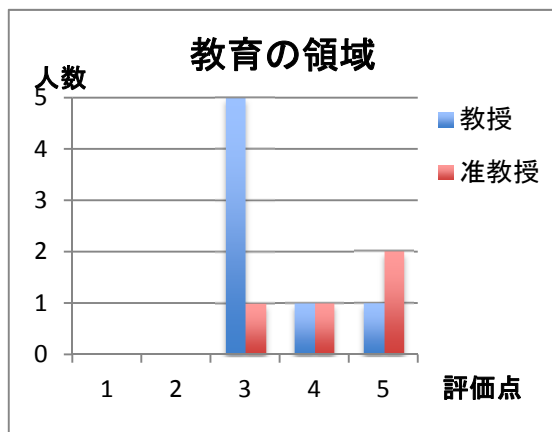
【先端融合工学専攻】

この表から、各教員は適切な自己評価を行っていると思われる。

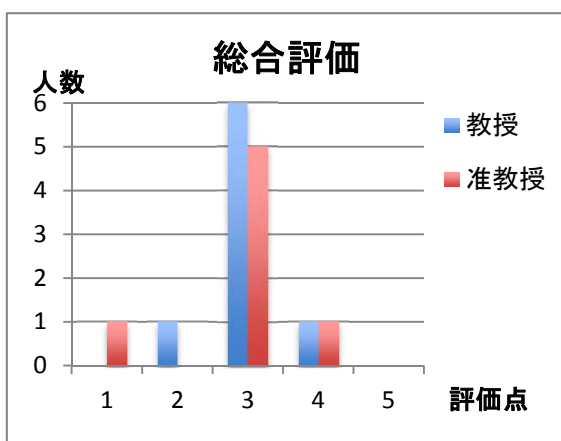
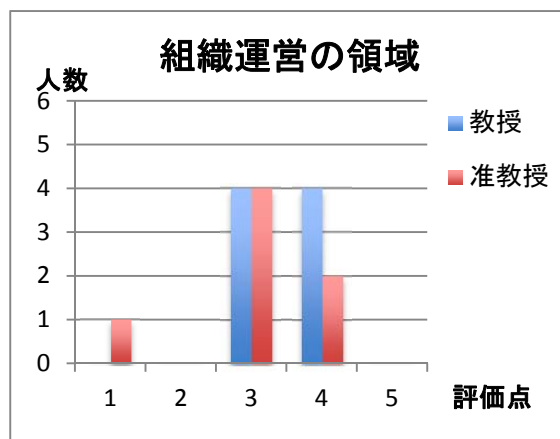
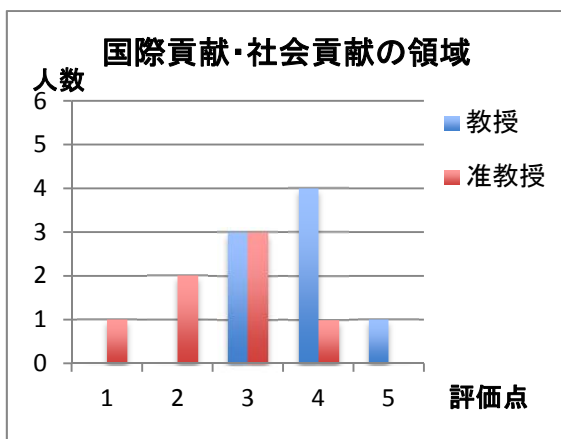
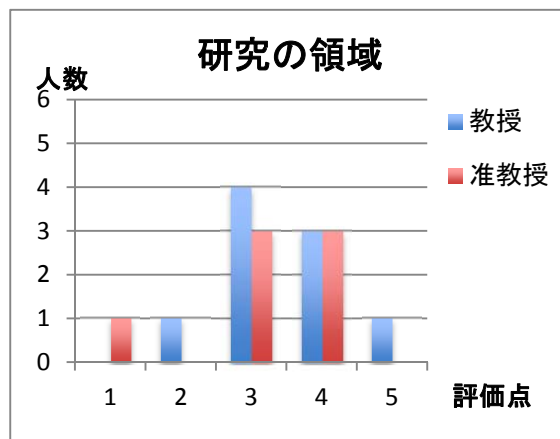
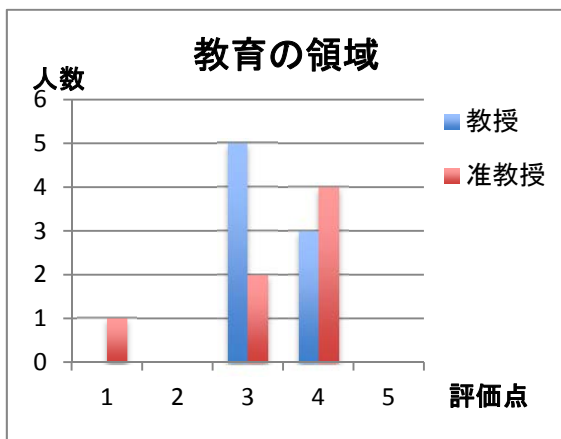
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

以下のとおり専攻毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。「准教授」は准教授と講師の合計を表す。

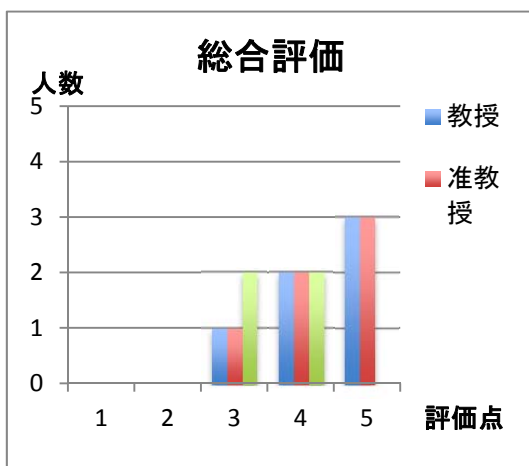
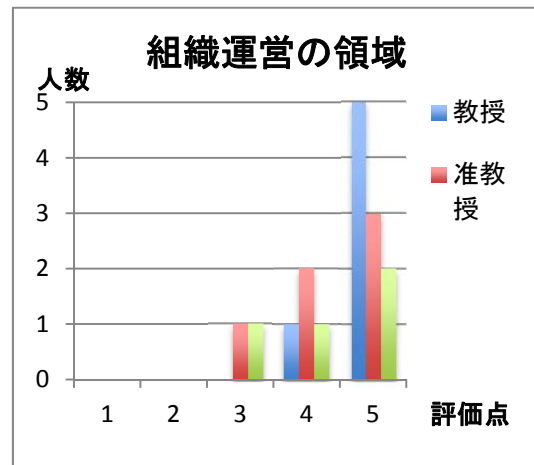
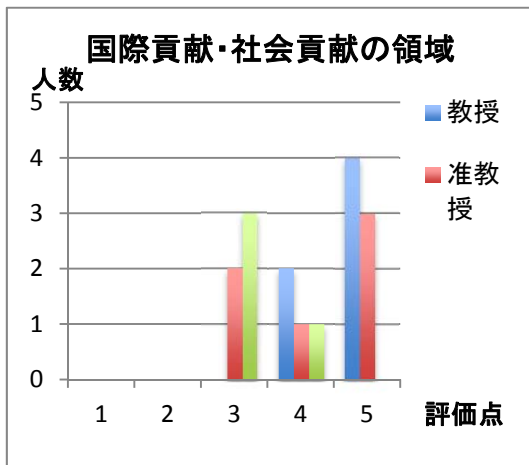
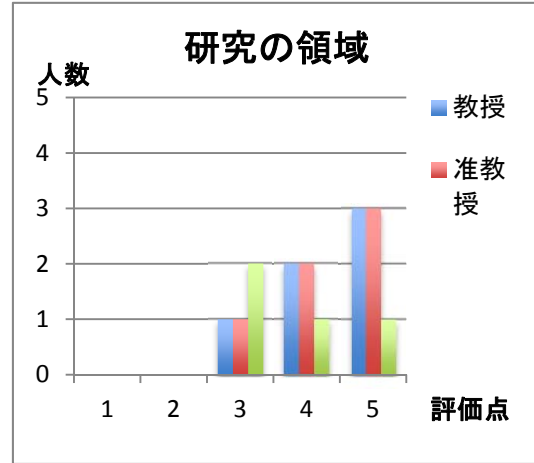
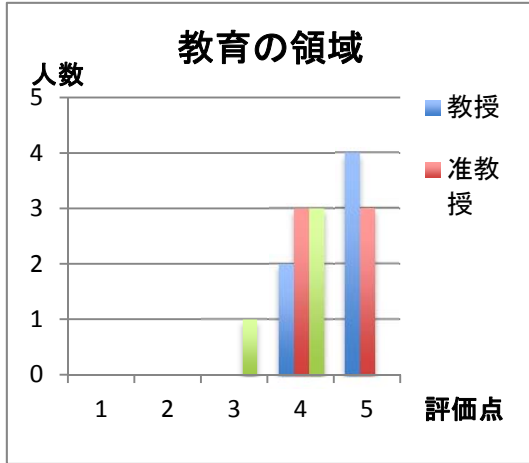
【数理科学専攻】



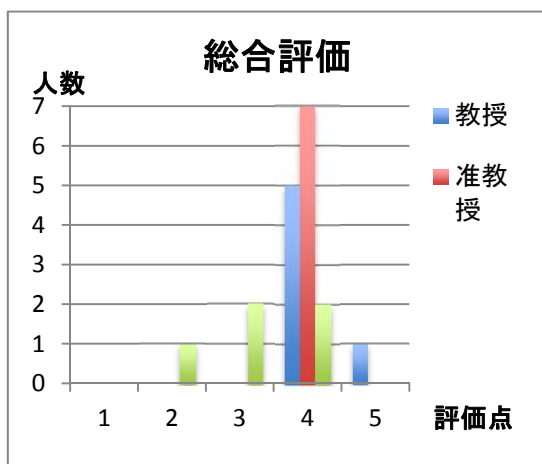
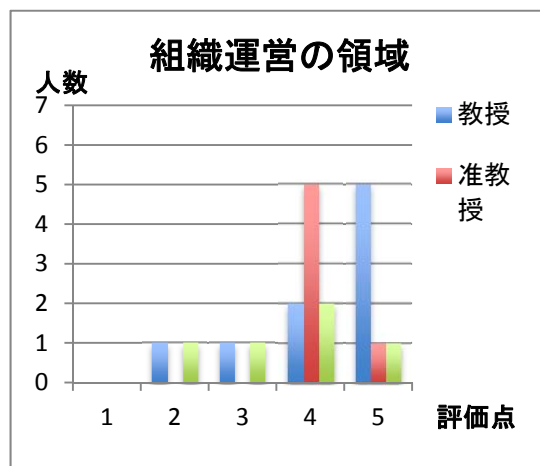
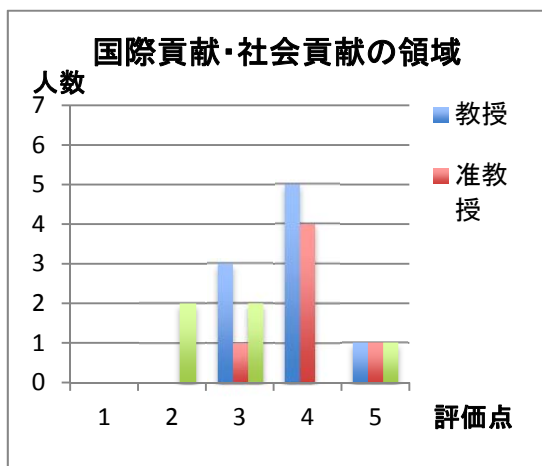
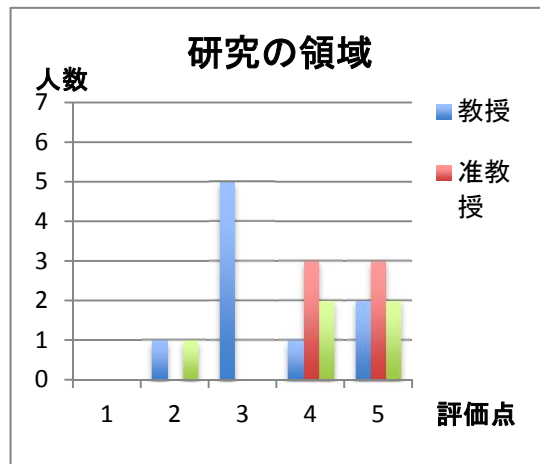
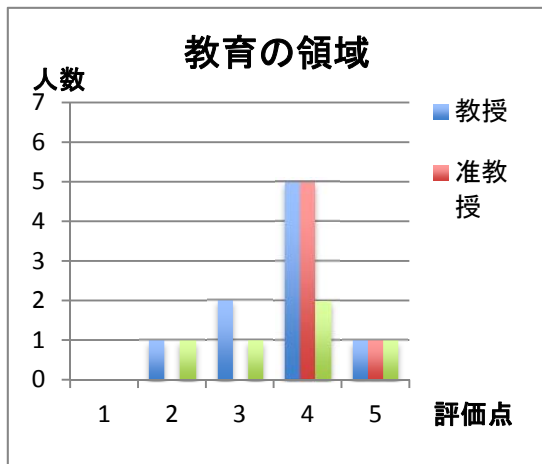
【物理科学専攻】



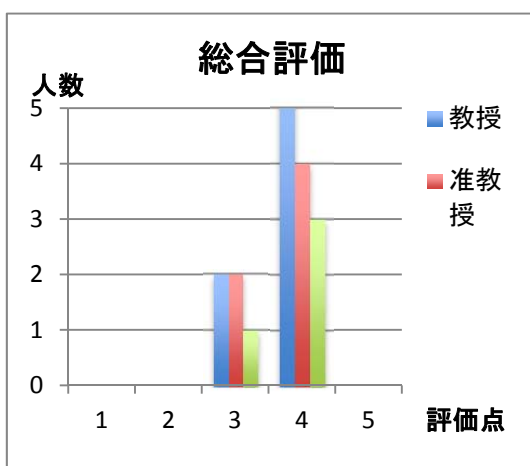
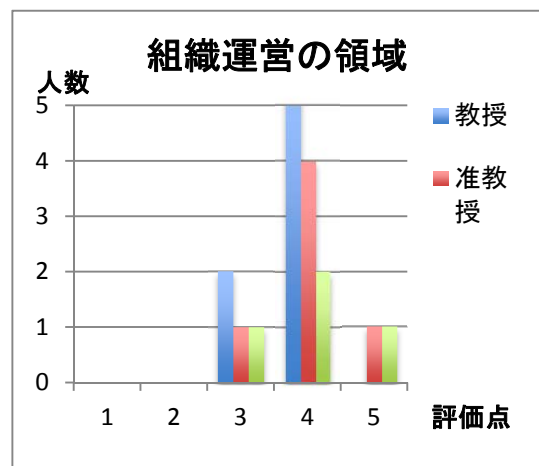
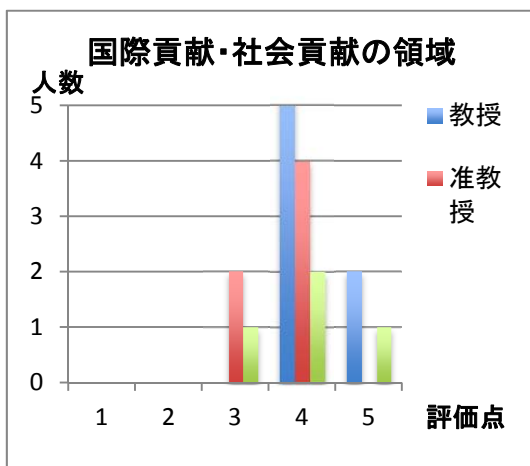
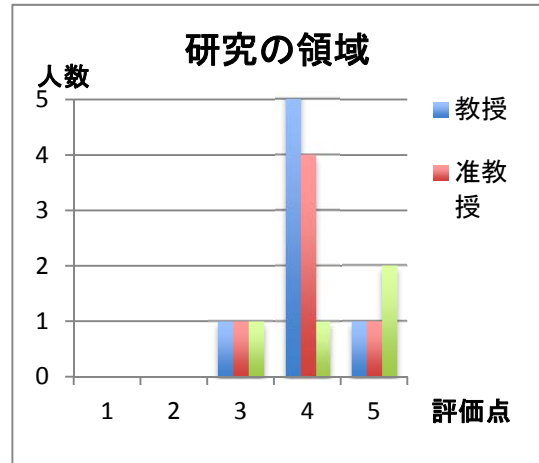
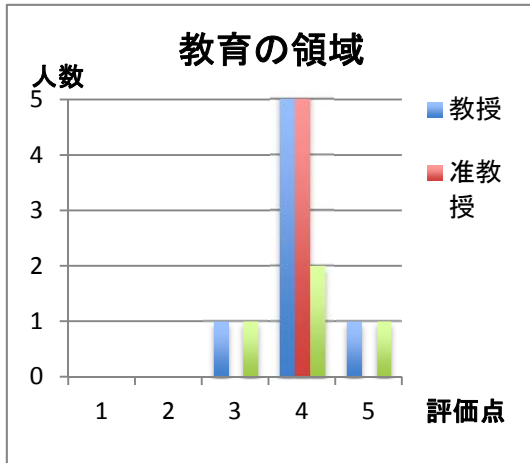
【知能情報システム学専攻】



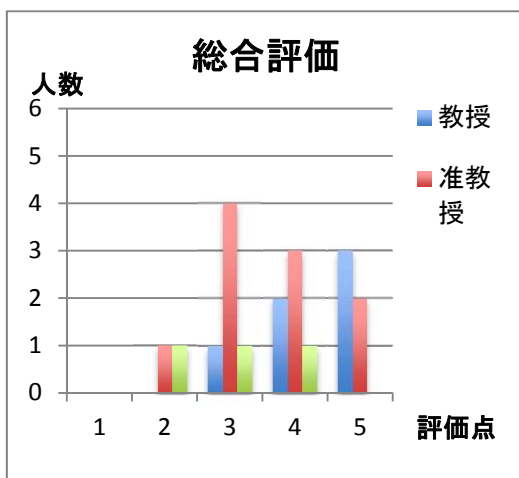
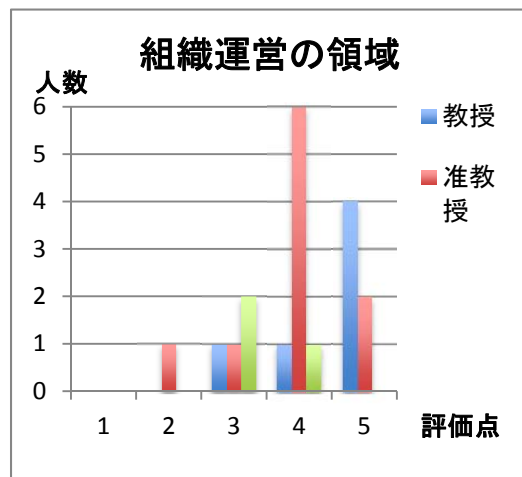
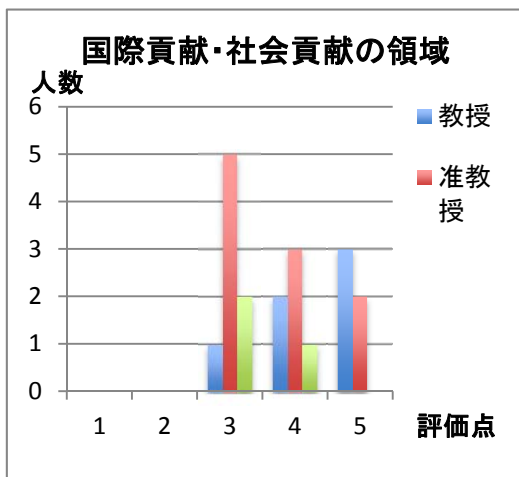
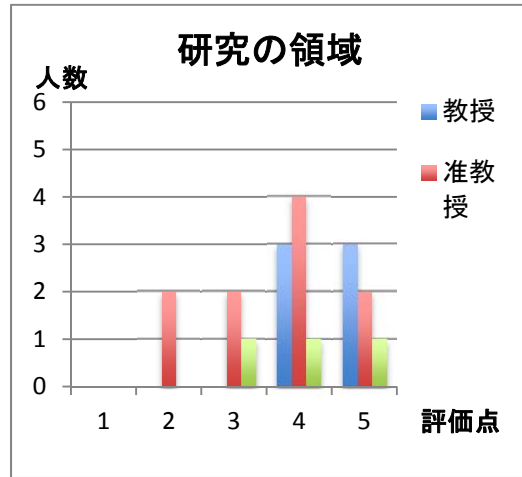
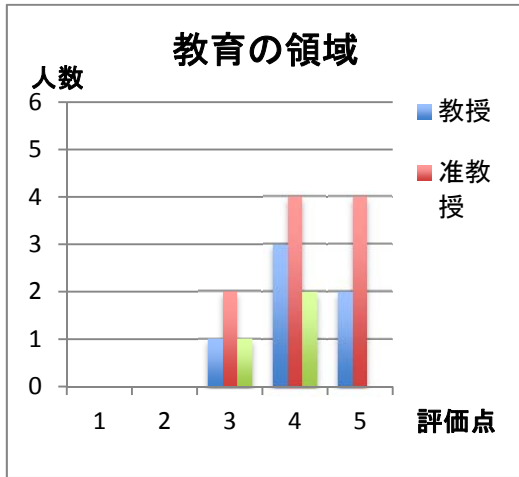
【循環物質化学専攻】



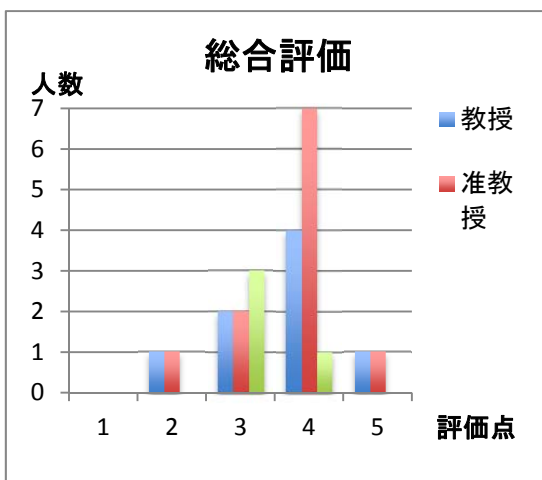
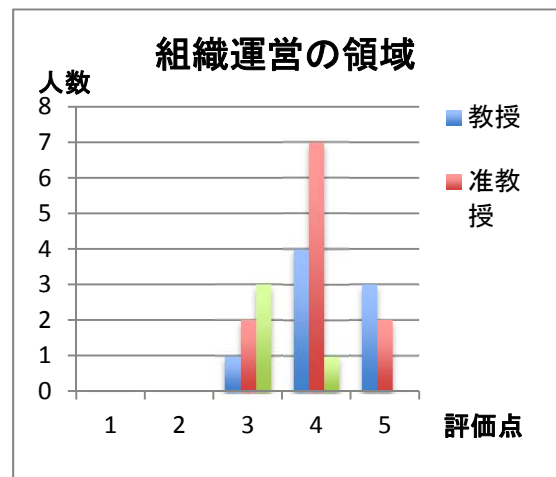
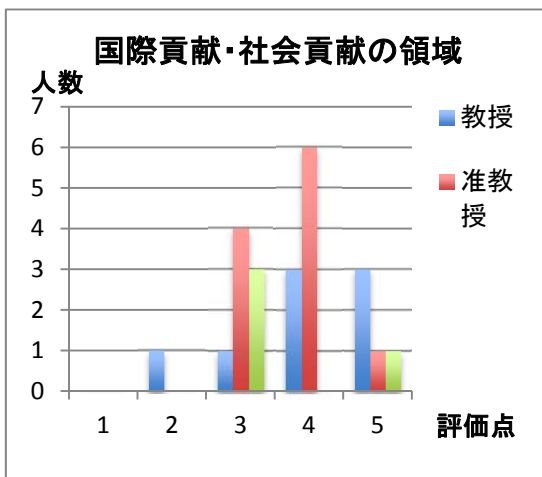
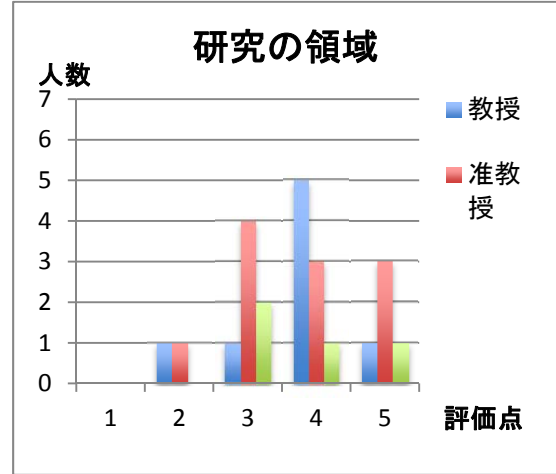
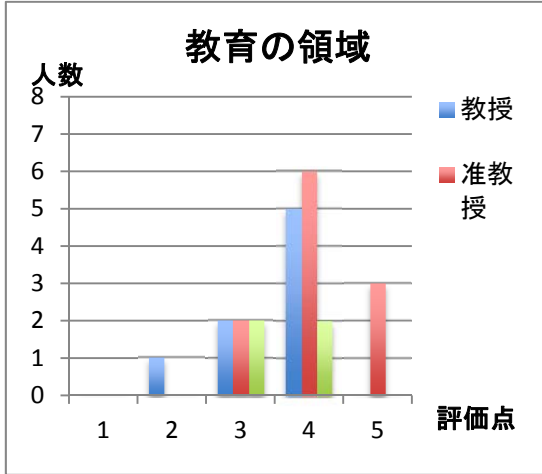
【機械システム工学専攻】



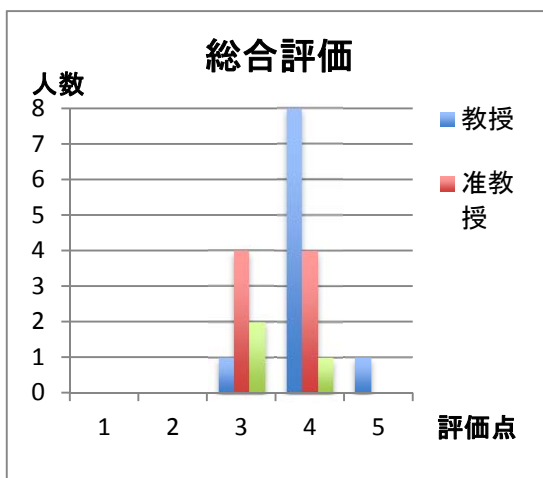
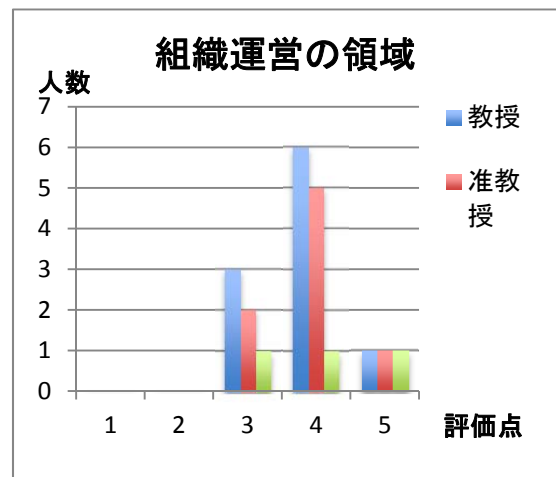
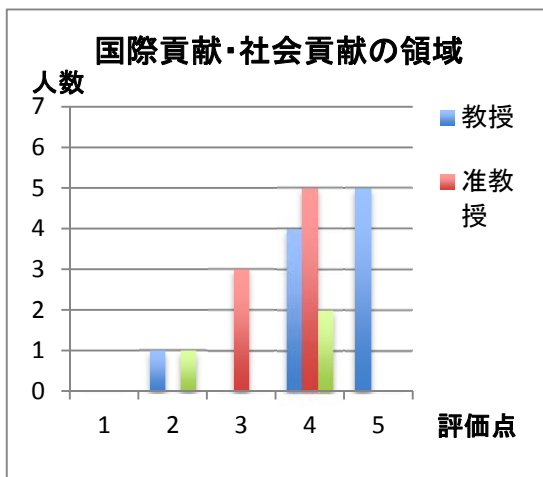
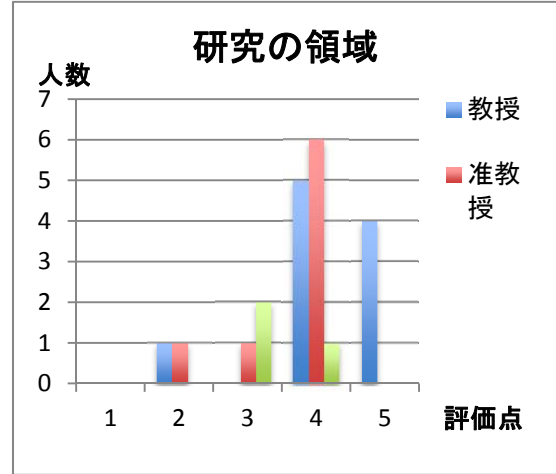
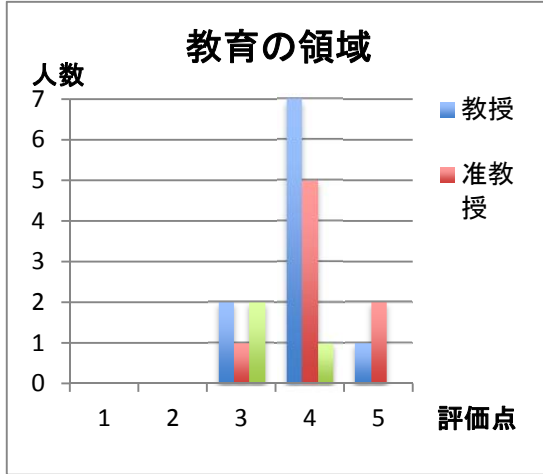
【電気電子工学専攻】



【都市工学専攻】



【先端融合工学専攻】



4.3. 評価委員からのコメント

各専攻の評価委員からのコメントを以下にまとめる。

【数理学専攻】

1. 学術雑誌の査読、一流雑誌への掲載、科研費の獲得率(教授7名中6名が代表者として獲得)を考えると、研究の活発さがうかがえる。
2. 入試作問、微積分リメディアル教育も継続して行い、学内に貢献している。
3. 高校教員との交流会も定例行事となっており、地域貢献もさらに深めたい。

【物理学専攻】

1. 教育改善に関する事項については、引き続き、教員それぞれが様々な取り組みをおこなっている。中でも、LMSやその他の方法を利用することによって、授業時間外学習を促す様々な取り組みが行われていることが目につく。また、学科で導入している少人数教育においては、対話型の授業を通して自分で考える形態を授業に導入する努力がなされている。
普通の授業においてもそのような試みを行っている教員もいる。
2. 研究については、昨年同様に著名な国際学術誌に論文発表をしており、良好な実績を残している。
3. 社会貢献に関しては、例年と同様、幅広く活動をおこなっている。
4. 組織運営については、全員が専攻の運営に関わっており、一部の教員が研究科や全学の組織の運営に積極的に関わっている。
5. 個人評価用集計シートの提出がなされていない教員(1名)については客観的なデータが不足しており評価の実施が不十分な結果になっている。来年度以降の改善を要する。

【知能情報システム学専攻】

1. 教育の領域・講義担当における工夫では、継続的に教育効果を上げる努力が行われていることが分かる。
2. 研究成果が向上している点は評価に値する。
3. 助教の研究成果(論文発表数)が伸び悩んでいる問題が解決していない。組織的な取り組みが必要と思われる。研究の立ち上げには長い助走が必要な場合もあり、一朝一夕に解決する問題ではないが、だからこそ腰を据えた解決が望まれる。
4. 今後しばらくのあいだ教員の退職が続くので、長期的な人事および講義計画を建てる必要がある。

【循環物質化学専攻】

1. 循環物質化学専攻では、教員個人が教育、研究、国際貢献・地域貢献、組織運営の

各領域においてバランス良く優れた成果を上げており、専攻として優れた貢献をしていると判断できる。

2. 学部教育においてはJABEE認定プログラムを継続し、質の高い教育を行っている。JABEE認定プログラムの継続審査では暫定の審査結果ながら1つのC判定以外には全てA判定を受けており、6年の認定を受ける予定である。大学院教育においては、博士前期課程のみならず、博士後期課程においても多くの学生を指導しており、着実な教育・研究成果を上げている。特に博士課程の学生には研究を通じた教育を熱心に行っており、その成果は学会での受賞や学生自身の執筆による論文発表などに反映されている。非常にバランス良く優れた貢献をしていると判断できる。
3. 研究においては、多くの教員が査読付きの英文誌に多く論文発表をしており、その発表論文の中にはIF値が極めて高い雑誌への発表も含まれており、研究の質の高さが伺える。また、多くの教員が学科、研究科、学部間で連携し、共同研究を行い、学長経費や研究科長経費、連携大学院共同研究費を獲得している。これらのシーズ研究の内部資金としての支援によって、次年度以降の外部資金獲得に向けて活動中である。さらに、市・県・官庁、他大学、民間企業と共同研究や受託研究を行い、外部資金を獲得して成果を上げており、専攻として優れた貢献をしていると判断できる。
4. 国際貢献については、多くの研究者が国際学会への参加・発表を行う中で海外の研究者との研究交流を行っている。専攻が主催した事業として、研究科の支援による国際パートナーシッププログラムや国際化推進事業（外国人研究者招へい事業）がある。これらの事業では招聘講師の講演のみならず、本専攻の教員による講演や、招聘学生と本専攻学生による英語によりポスター発表も多数有り、教育や研究としての波及効果も高い。地域貢献については、地域の研究アドバイザーとして講師を務める教員や佐賀県や九州地区の理科教育の尽力する教員がいる。また、社会貢献として、学会の主要な委員を務める教員が数多くおり、学会での講演会や見学会の実行委員や運営委員を務め、盛会に努めている。これらの点についても非常にバランス良く活躍しており、優れた貢献をしていると評価できる。
5. 組織運営については、全学、研究科、専攻において本専攻教員は幅広く組織運営の責務を果たして活躍しており、また多くの教員が重責を担う役職任務を遂行しており、貢献度は極めて高いと判断できる。特に、エコアクション等の安全管理にも当専攻は学内で先導的活動を行っている。さらに、全学センターや大学教育委員会、工学系研究科の活動に多くの教員が貢献している。

【機械システム工学専攻】

1. 機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構のJABEE認定を受けている。この認定プログラムは継続的な点検・改善を必要とし、定期的に日本技術者認定機構による審査が行われるが、直近では平成22年10月に継続審査が完

了した。この事実は当学科で質の高い教育が保証・維持されていることの証左であり、教員の日々の研鑽により導かれた結果といえる。

2. 大学院教育に関しては、講義での専門知識の修得に加えて、丁寧な研究指導による学生の能力の向上が図られている。
3. 研究の面では、国内外の学会などでの論文発表が活発に実行されている。研究費については、科学研究費補助金だけでなく、共同研究や奨学寄付金、財団からの研究助成などの受け入れについても積極的に取り組まれている。これらの実績から、機械システム工学専攻の研究に対し民間企業等が強い期待を持っていることが分かる。
4. 社会貢献・国際交流では、学会等の役員および委員会委員として活動し、また講演会、研究会なども精力的に開催している。さらに、外国人研究者の受け入れや、国際会議においての情報交換も積極的に行なわれている。
5. 上記 1.~4.と自己評価結果を勘案して、全ての教員は各自の活動の自己評価を適切に行なっていると判断する。

【電気電子工学専攻】

1. 教育・研究・総合評価に関する正確なデータは年々入手しやすく、整理も容易となり把握しやすくなっている。これに伴って分析の精度が向上していると考えられる。
2. 複数の情報源での数値が異なっている場合があり、より精度の高い分析のためには統一的なデータ収集が望まれる。
3. 各教員は概ね妥当な自己評価を行っているが、過小評価することなく各自自信を持って業務に取り組んでいただきたい。

【都市工学専攻】

- (1) 教育について
 - 学生の授業評価を踏まえ、学生に分かりやすくする様々な授業の工夫が実践されており、総合的に授業方法の改善が図られていると考えられる。
 - 平成18年度に都市環境基盤コースと建築・都市デザインコースを導入したが、最初の学科入学生が平成23年度に博士前期課程を修了し、学部から博士前期課程までのワンサイクルが完成した。これによってコース制導入の評価を踏まえた教育システムの改善に着手することが可能な段階に至ることから、今年度その検討に着手している。
- (2) 研究について
 - 教員個人間に論文数のばらつきがきわめて大きい。
 - 研究分野の事情も背景にあると考えられるが、研究活動の落ち込みを極力少なくし、専攻全体の研究活動を一層高めるための自覚と努力が望まれる。
- (3) 地域・国際貢献について
 - 多くの教員が行政などの各種委員会や審査会などを介して地域社会に貢献している。

- 半数近くの教員が工学系研究科の国際教育パートナーシッププログラムや環黄海教育プログラムへの参加、外国からの教員・研究員・大学院生の受け入れ、及び国際的共同研究の実施により、国際学術交流を行っている。

【先端融合工学専攻】

1. 教育に関しては、評価点や達成率の平均値も高く、担当科目数も他大学教員よりも多い。また、多くの教員がFD講演会に参加したりする等、教育改善に対する工夫と努力が見られる。
2. 研究に関しては、各教員が多くの研究成果を出している上、外部資金の獲得も多い。各教員の評価点や達成率の平均値も高く、十分な成果を挙げていると思われる。
3. 社会貢献・国際交流に関しては、多くの学会や地域の協議会・審議会の役員等をこなしている。評価点や達成率の平均値も高めの値であり、社会貢献や国際交流に対する理解と努力が感じられる。
4. 組織運営に関しても、全教員の積極的な関与が見られ、各教員の評価点や達成率の平均値も高い値になっている。
5. 個人評価は、各自達成目標を異にするため成果の評点を単純に比較することには無理があるが、教員はおおむね各自の活動の自己評価を適切に行っていると判断する。

平成 24 年度工学系研究科評価委員会委員名簿

委員長	林 田 行 雄	(研究科長)
委員	中 島 謙 一	(副研究科長・評議員)
委員	渡 孝 則	(副研究科長)
委員	船久保 公 一	(副研究科長・佐賀大学評価委員会委員)
委員	木 上 洋 一	(大学教育委員会企画・評価専門委員会委員)
委員	鯉 川 雅 之	(教務委員会委員長)
委員	宮 崎 誓	(数理科学専攻長)
委員	米 山 博 志	(物理科学専攻長)
委員	渡 邊 義 明	(知能情報システム学専攻長)
委員	大 渡 啓 介	(循環物質化学専攻長)
委員	辻 村 健	(機械システム工学専攻長)
委員	豊 田 一 彦	(電気電子工学専攻長)
委員	外 尾 一 則	(都市工学専攻長)
委員	村 松 和 弘	(先端融合工学専攻長)
委員	江 口 邦 子	(工学系研究科事務長)